

文化財周辺の樹木の学術調査と維持管理

神戸大学保全生態学研究会

代表：修士1年 高橋あかり

指導教員：石井弘明 教授

活動のねらい

- ・文化財の周辺には樹木が生えていることがあります。これらは景観の面でプラスに働く一方で、倒木などによって被害をもたらすこともあります。両者を維持していくための管理方法について検討すること、また近年不足しがちな修理用材の調達について検討することを目的に活動しています。
- ・西宮市の天然記念物や保護対象に指定されている社寺林などについて生態学的な調査を行い、市民の方々に天然記念物の価値を知ってもらいたいという思いからこの活動に取り組んでいます。

活動を通して得られた知見をイベント等で発信することによって環境の保全と暮らしやすい社会を実現することを目指しています。

活動内容

- ・地域の茅場再生プロジェクトを行うことで文化財のカヤ不足にもメリットがあるのではないかという視点からの取り組み。丹波篠山市の茅場をお借りし、茅場管理を行っています。



- ・草刈り
- ・移植



- ・文化財や地域遺産周辺の樹木個体を調べることで、文化財と樹木の両方を維持していく管理方法についての検討をしています。



周囲の森林によって建物の屋根が被害を受けた。
西宮市指定文化財とその周囲を囲む天然記念物指定の森林の共存が課題。

西宮市関西学院大学近くにある7世紀ごろの古墳。
小さな丘陵状になっており、樹木の根が張ることで補強されている。



啓蒙・普及活動

学生ボランティアとの森林観察・管理

毎年、「えびすの森」では天然記念物に関する講義と林内清掃イベントを実施しています。林内清掃ではかつて問題となったシュロの実生を引き抜いてもらっています。この活動によって現在ではシュロがほとんどありません。



神社や社叢林の公開

神社の成り立ちや社叢林について解説を交えながらの見学することができる機会を設けました。身近な神社であっても、社叢林に入ることができる機会は意外と少ないため好評です。

今後の展望

- ・引き続き各調査地について詳しい学術調査を行い、都市緑地の保全・管理手法の提案に努めていきます。